

_____ 大腸憩室出血患者における重症化及び再出血リスクの検討

_____ わが国では大腸憩室の増加に伴い憩室からの出血の患者さんも増加傾向です。その原因の一つとして人口の高齢化などが挙げられ、時に重篤化することもあります。また一度出血が止まっても再出血することが多いのがこの病気の特徴ですが、どういう場合に重症になるのか、再出血するのかわかっていません。本研究の目的は当施設における憩室出血の重症化及び再出血に関与する因子を明らかにすることです。

_____ 本研究によって大腸経出血患者の重症化及び再出血リスク因子を明らかにすることにより、重症化や再出血を予想し予防することが期待できます。

_____ 医療記録（カルテ）から、2004年1月～2018年12月までに、当院内科に入院となった全大腸憩室出血患者さんを対象として、行った処置（内視鏡的止血術や血管塞栓術など）とその結果（止血の可否）、輸血の有無、再出血の有無を調査します。また背景因子（年齢、性別、基礎疾患、併存疾患、併用薬、疾患の部位など）も併せて調査します。

_____ 帝京大学医学部内科学講座消化管研究室 教授 山本貴嗣

_____ 個人が特定され得る記録については暗号化し、学内の規定（プライバシーポリシー）に従って、学内の施錠可能な場所に保管します。

_____ 帝京大学医学部内科学講座消化管研究室 教授 山本貴嗣 ymmt@med.teikyo-u.ac.jp

_____ 帝京大学医学部内科学講座消化管研究室

_____ 准教授 小田島慎也、講師 阿部浩一郎、大学院生 丸山喬平

_____ 東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL 03-3964-1211

_____ 7030